

大津市下坂本地区の民家の特性

吉見静子，島田祥子

家政学部住居学科

(2004年9月24日受理)

The Characters of MINKA-houses in Simosakamoto, Otsu City, Shiga Pref.

Department of Housing and Design, Faculty of Home Economics,
Gifu Women's University, 80 Tamaru, Gifu, Japan (〒501 - 2592)

YOSHIMI Shizuko and SHIMADA Syohko

(Received September 24, 2004)

はじめに

本稿は平成15年(2003)に中近世古道調査の建造物分野として行った西近江路の民家調査資料を基に、大津市下坂本地区(1丁目から4丁目まで)の民家の特性を明らかにするものである。

この地区は、現在は道に沿って住居が並び静かな街村であるが、かつては、西近江路の宿場であり、旅籠屋や商店が建ち並んでいた。

(1) 町の建築構成

西近江路に平行して西に国道161号線が通っている。街道沿いには切妻造瓦葺平入りの木造住宅が多く見られる。建設年代は幕末や明治時代のもは少ないが、昭和期の民家も伝統的な形式を受け継いでいる。

(2) 個別解説

津田 実氏宅

下坂本一丁目に所在し、四ツ谷川橋から街道を北へ120m余行った南西角地に建つ。

主屋は切妻造り瓦葺木造平入りで、前面と背面に庇を設け、西側の棟の上に越屋根を設

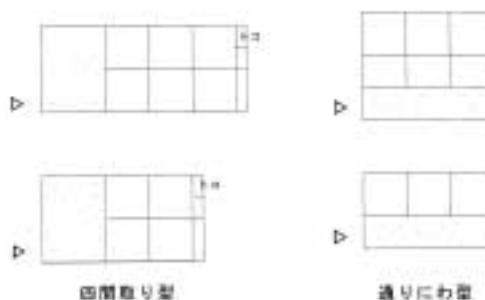


図1 民家形式模式図

けている。道路側の一階の外壁は腰壁が下見板張り、上部は土壁で、手前には格子が全面に設けられている。つし部分は漆喰塗りである。両妻面側の壁は板張りである。

建設年代は家伝によると明治10年(1877)頃に比叡山の寺院の古木を使用して建てたという。

主屋の規模は間口約8.9m、奥行約12.9mで、西側の道路側に約1.9×2.9mの洋間の一部が突出している。平面構成は一列三室通りにわ型を基本としている。玄関から入り、右手にはげんかん、なんどが並び、左手には洋室がある。玄関の奥には七畳間となかまが設けられ、最も奥には台所とざしきがある。入口には格子の入ったガラス



図2 民家形式分布図

戸とくぐり戸付の大戸を用い、洋室の一部に収納している。げんかんは三畳で道路側に格子をはめている。なんどは四畳半で、道路側に1間の出格子を、妻面に吊床を設けている。洋間は約6畳で、天井、壁、床には新建材を使用している。道路側の開口部には格子をはめている。なかのまは8畳で、根太天井である。北側妻面には階段を設け、階段との境には神棚がある。七畳間は根太天井で、玄関境に上がり段を設けている。ざしきは10畳で、竿縁天井、北側妻面にトコ、タナ、仏間、押入れが並んでおり、中庭に面して縁側を設けている。台所は約3.8m×約3.9mで、天井、壁、床には新建材を使用している。奥には便所、風呂、脱衣洗面所を設けている。

なかのまと七畳間の境にある二本の柱は太く、奥の柱は大黒柱でより太い。玄関側の柱は小黒柱である。

聞き取り調査と痕跡調査から復原すると、玄関・七畳間・台所のゆか部分は、元はにわで土間であった。七畳間は土間板間畳と変化している。にわの奥は吹き抜けで、ナガシヤカマドを設置していた。一列三室に通りにわのある町家の特徴と、広い土間を持つ農家の特徴を併せ持っていることがわかる。

げんかん、なんど、なかのまが接する柱はその上部の束とずれており、以前はげんかんとなんどは一室であったと考えられる。

寺田 敬蔵氏宅

大津市立下坂本小学校の南東に位置し、街道の東角地に建っている。

かつては屋号を「キノメ」と呼び、一時期、材木屋を営んでおり、第二次世界大戦後に精米所を営み、その後食品を扱うようになった。

建設年代は明らかでないが、明治中期と考えられる。

主屋は入母屋造草葺トタン被せ妻入りで、出入口を南側にとり、前面道路側の外壁は北側に格子を一間半はめており、その他はモルタルで仕上げている。

主屋の規模は、合掌の梁間3間半、桁行4間半で、前背面と道路に面した側面に半間の瓦葺きの庇、土間側は半間のトタンの庇を設けており、葺き下ろし部分はない。古くは、庇はなく四周葺き下ろしであったと考えられる。

平面構成一列三室通りにわ型を基本としているが、ゆか部分の前面に2室設けているのが特徴である。入口から入ると通りにわがあり、中央にだいどこと呼ばれる板敷きの約三畳の部屋が設けられ、その中央にイロリをきり、かつては食事をしていた。通りにわの奥にフロオケを置いていた。

ゆか部分には前面道路側になんとと応接間(元みせのま)の2室を、続いてなかのま、ざしきを設けている。ざしきは八畳で、トコと押入れを備えている。

小屋組は合掌組で、主屋の柱は石場建てである。大黒柱はなかのまと応接室の境にある。

聞き取り調査と痕跡調査から復原すると、古くは一列三室通りにわ型であった。精米所を営んでいた頃はなんととみせのまは1室で土間であった。建設当初は、なんとは3畳で、道路に面した部分は縁であった。

通りにわの中央にはみせのまの床下の骨組みを移して床を上げただいどころがある。食事をするために設けられ、昭和10年(1935)頃には造られていた。

③松田 弘氏宅

北には藤ノ木川が流れ、東には南西から北

東に通っている国道161号線をはさんで琵琶湖がある。街道の東側に建っている。屋号を「なべ源」といい、かつては鍋屋を営んでいた。近くにかつて旅館業を営んでいた家が2軒ある。

主屋は切妻造り瓦葺木造平屋建て平入りで、道路側と縁側部分に庇が設けられている。また、西側の棟の上には越屋根が乗っている。一階前面三間には格子がはめられている。玄関側の腰壁は下見板張りで仕上げられ、上部の壁は漆喰塗りである。つし部分は漆喰塗りである。妻面は縦板とトタンが張られている。

主屋は間口約11m、奥行約10.9mで、二列六室通りにわ型を基本としている。現在、通りにわのほとんどは床を上げている。出入口から入ると隣に三畳間があり、奥に客間、居間兼食事室と並んでいる。これらに平行してみせのま、なかのま、ざしきと並んでいる。みせのまは6畳で、押入れを設けており、竿縁天井である。なかのまは6畳で、竿縁天井が張られている。客間の向かい側に押入れが設けられている。ざしきは10畳で、床・柵とブツマを備え、長押を回し、竿縁天井を張り、中庭に面して縁側を設けている。

主屋の奥には約16m×約7.7mの水屋が付属しており、台所、浴室、脱衣室、便所を含んでいる。

当家は多くの部分が改装されている。特に玄関、客間、居間・食事室は柱が新建材で覆われており、梁の痕跡等是不明だが、聞き取り調査により復原すると、これらの部屋は古くは土間で、通りにわであったとのことであり、元の平面構成は二列六室通りにわ型であったと考えられる。

④林 宏氏宅

大津市立下坂本小学校の西100mの位置にあり、北には藤ノ木川が西から東へ流れており、街道の西側に建っている。主屋は昭和四年頃に建てられた。

主屋は切妻造瓦葺平入りで、むくり屋根である。表と裏に庇が設けられている。一階前面の3間は格子をはめており、それ以外の前面の腰壁には下見板張りで仕上げられ、上部は漆喰塗りである。つし部分は漆喰塗りである。両妻面はトタンで覆われている。

主屋の規模は間口約9.7m、奥行約13.6mである。平面構成は二列六室通りにわ型を基本としているが、現在、通りにわ部分は床を張っている。元の土間部分は、にわから入り、続いて応接室とリビングダイニングキッチンとしている。床部分は前面にげんかんとねどこ、続いて三畳間とぶつま、ぶつまの奥にざしきが並ぶ。にわは、天井、壁、床共に新建材を使用している。げんかんは三畳で、ねどことの境には葦戸(夏用建具)をはめている。三畳間にはぶつま境に提灯棚と神棚を設け、葦戸をいれている。ねどこは大引天井で、道路側には出格子を、側面に押入れを設けている。ぶつまは六畳で、側面に仏間を二箇所に設けている。ざしきは8畳で、トコとタナを設け、中庭側にえんがわを設けている。

主屋の小屋組みは登り梁である。内向きの空間には差鴨居を用い、接客空間には長押を使用している。三畳間と応接室、リビングダイニングキッチンとの境にある柱は240mm角の大黒柱である。げんかんと三畳間、応接室とにわとの境にある柱は約210×205mmの小黒柱である。柱は石場建てである。

西側半分は大きく手を加えられていたが、痕跡調査と聞き取り調査により復原したとこ

ろ、二列六室通りにわ型であったと考えられる。現在の にわ と応接室の部分が土間で、幅の広い 通りにわ であっていた。それまで営んでいた農業をやめ、幅の広い土間が必要なくなったため、土間の床を上げて現在の間取りになったと考えられる。リビングダイニングキッチンの ざしき 側4畳分は板敷きで、げんかん と 三畳間 とが一列に並んでいた。応接室と三畳間の境にはあがり口があり、土間にはカマドやナガシ等が設けられていた。

(3) 民家の特性

その形式は通りにわ型と四間取り整形型である。

1) 通りにわ型の特徴

通りにわ型には一列三室型と二列六室型とがあり、前者が21棟、後者が7棟である。草葺の場合は妻入りであるが、瓦葺きの場合は平入りである。

通りにわ や だいどころ には差鴨居を用いているが、その他の床部分は薄鴨居を用いている。

道路側の前面の部分は2室に分割し、玄関と なんと としている。

通りにわ型の農家では床部分に匹敵する通りにわの土間を持っている。

2) 四間取り整形型の特徴

四間取り整形型には桁行方向に2室付加している例もある。

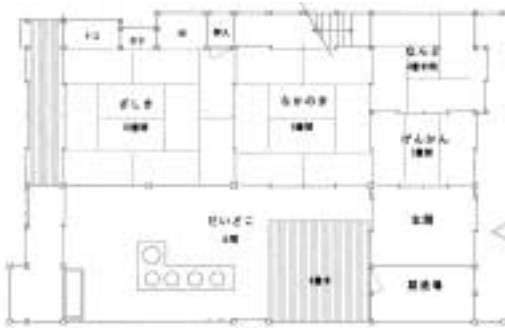
ざしき を背面に設ける。

参考文献

- 1) 近畿の民家 林野全孝 相模書房 昭和15年11月15日
- 2) 滋賀県の近世民家 滋賀県近世民家調査報告書 奈良国立文化財研究所 滋賀県教育委員会 平成10年3月



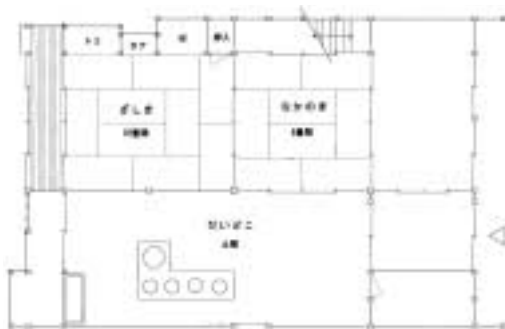
現状平面図



復元図 (昭和10年頃)



外 観



復元図 (建設当初)



座敷の床・棚・仏間

図3 津田 実氏宅 図面・写真



現状平面図



復元図(昭和13年)



復元図(建設当初)



外 観



断面図

图4 寺田 敬藏氏宅 図面・写真



現状平面図



復元図(建設当初)



外 観



ざしき 床・棚・仏間

図5 松田 弘氏宅 図面・写真



現状平面図



復元平面図 (建設当初)



外 観



入口部分



ざしき の床・棚



つ し

図6 林 宏氏宅 図面・写真